

平成29年度小国町立小国中学校教育計画方針重点等

■ 1 教育目標

白い森の国おぐにを愛し、たくましく、心豊かで、生き抜く力を身につけた小国人の育成

- 1 目標に向かって、根気強く、やりぬくたくましい生徒
- 2 豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒
- 3 確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒

■ 2 めざす学校像

『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』

■ 3 めざす教師像 *基本姿勢は別紙

めざす生徒像に向かって、温かな思いで、生徒に寄り添い、根気強く、急がず、褒めながら、生徒を変え続ける教師

■ 4 経営の方針

- (1) 事故防止及び危機回避をすべてに優先するものとし、安全安心な学校づくりをすべての教育活動の前提とする。
- (2) 第6次山形県教育振興計画、町の教育目標を受け、本校の教育目標及び重点を設定する。
※『人間力に満ちあふれ山形の未来をひらく人づくり』つなぐ～いのち、学び、地域～
※「人間力」と、郷土の明日を切り拓く想像力に満ちあふれた児童生徒
- (3) 生徒指導の三機能を基盤とし、「小国中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめのない学校にする。いじめのない学校を推進するに当たって、新たに制定した「小国中生徒憲章」を積極的に生かす。 ※「自己存在感⇒自己有用感」「共感的人間関係」「自己決定の場」
- (4) めざす学校像『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』といえる意欲あふれる取り組みを進めることで、活力ある学校づくりを進める。
- (5) 体力向上と共に学力向上をめざし、体力づくりを一層積極的に進めることで、活動意欲の向上を図る。
- (6) ユニバーサルデザインの視点の取り入れた授業改善を一層すすめ、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに探究型学習を一層推進する。
- (7) タブレット及び電子黒板等の授業改善に生きる有効活用を促進する。
- (8) 「特別の教科道徳」の完全実施、次期学習指導要領への移行を計画的に進める。
- (9) 平成30年度試行、31年度完全実施をめざす新小中高一貫教育の理念に沿った取り組みを推進する。
- (10) 特別支援学級及び通常学級における特別支援教育を重視し、一人一人の障がいや気質に応じた対応を一層進める。
- (11) コミュニティスクールの趣旨を生かし、学校経営に保護者や地域の意見を反映させるとともに、地域と協働する取り組みを進める。
- (12) 教育公務員としての自覚と使命感を持ち、服務規定の遵守と自己研鑽に努める。

■ 5 経営の重点と具体策

- 1 【目標に向かって、根気強くやりぬくたくましい生徒】に向けた重点と具体策

(1) 自らの命を守る教育の充実

- ・学校安全計画の策定による計画的な安全教育の実施
- ・「有用感」を意とした自尊感情を高めるための学級、学年、生徒会等での事前指導の充実
- ・自転車通学の希望者許可制に伴う指導の充実と無事故の実践
- ・食物アレルギーへの確実な対応

(2) 望ましい生活習慣を身につけさせる取組の充実

- ・「おぐにスタンダード」に沿った家庭生活の改善の取り組みの小中連携による推進
- ・「人間力向上8箇条」を踏まえ、かつPTAとの連携を一層重視した取り組み
 - 1. 朝食をしっかりと食べる、
 - 1. 毎朝排便、
 - 1. 遅刻をしない、
 - 1. 授業で寝ない
 - 1. 汗をかく運動、
 - 1. 毎日勉強は2時間、SNSは1時間以内
 - 1. 風呂に入る、
 - 1. 睡眠は7時間
- ・SNSの適切な使用について、生徒会及びPTA活動の取組を充実する。

(3) 健康教育の充実

- ・健康診断後の精検や治療のすすめの継続
- ・食育教育全体計画に基づいた食育指導の充実

(4) 体力テスト全国比較52.5以上を目標とした体力の向上

- ・『キビキビ行動ハキハキ返答』の体育の授業
- ・冬の合同部活動『炎のトレーニング』の実施
- ・クォータートレーニング(Qトレ)の充実
- ・春の体力テストに加え、持久力向上を意識した春秋のQトレ持久走大会の実施
- ・「おぐにスタンダード」体力づくりの小国小学校と連携した取り組み
- ・授業、集会における姿勢指導

(5) つけたい力を明確にした部活動の充実

- ・部活動でつけたい力(「誰が来ても(整列し)あいさつ」「返事」「キビキビ行動」)の共通指導
- ・部活動で、リーダーを育てる意識
- ・部活動改廃基準に基づいた学校運営協議会の決定を受けた決定事項の丁寧な対応

※H29年度実施の決定事項

- ・水泳部については、平成29年度より募集を停止とする。
- ・部活動の代替えを認める校外スポーツ団体所属生徒については、『総合スポーツクラブ』所属とする。個々の生徒の活動実態に合わせ、補う運動を行わせる。
- ・男子バレーボール部については、平成29年度は募集を行い、入部者が5名以下の場合、平成30年度以降の募集を停止する。

2 【豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒】に向けた重点と具体策

(1) 自己有用感を高める学級経営の充実と学校を休まない子どもにするための取組

- ・「あふれさせた言葉」のあふれる学級経営
- ・「なくしたい言葉」への取り組みの継続
- ・生徒指導の3機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定) + 自尊感情を高める学級経営
- ・不登校及び別室登校生徒担当者会の開催と専門機関との連携、及び小学校との連携強化

- ・「自分を見つめて」アンケート、生活ノート記述内容についての校内対応の明確化
- ・ハイパーQ Uの実施と結果の活用→「要支援生徒」は1週間以内に面談、家庭連絡

(2) 豊かな「かかわり合い」ができる体験活動

- ・運動会、修学旅行、CSW、文化祭など行事における感動体験

(3) 清掃活動の充実

- ・清掃は年間3期制の縦割り班
- ・清掃リーダー指導
- ・清掃開始時の見とどけ
- ・清掃は道徳、無言清掃を意識した清掃指導の研修

(4) 道徳教育の充実

- ・仲間のよさに目を向けさせる指導
- ・相手を思いやる言動の指導
- ・道徳の授業へのICT機器の積極的活用
- ・いじめの早期発見と組織的早期対応

※参考【いじめや問題行動発生時対応の配慮事項】

- ①指摘を受けたら、その日のうち教頭に報告、
- ②対応状況は毎日家庭連絡、
- ③対応が済んでも1週間後に連絡、
- ④1カ月後にまた連絡

- ・特別な教科道徳完全実施に向けた準備

(5) 生徒会活動の充実

- ・「合唱」「ボランティア」「あいさつ」の指導の継続と充実
- ・授業で、Qトレで、部活動で、「五あいさつ運動」の取り組み『相手より先に五あいさつ』
※おはようございます、こんにちは、おねがいします、ありがとうございます、ハイ
- ・あいさつ運動のPTAと生徒会の連携の推進
- ・『小国中学校生徒憲章』の趣旨を生かした生徒会活動の推進

(6) 校内外生活、生徒会などの場で、生活上の問題を課題化する力の向上と自治力の育成

- ・「生徒心得」の見直しの継続と年度当初の指導による規範意識の醸成
- ・「小国中スタンダード」の見直しと各学年学級での指導の平準化
- ・生徒会、自治会における問題予防及び課題対応

(7) 特別支援教育の充実

- ・特別支援学級の進路を意識したカリキュラム作成とそれに沿った指導
- ・特別支援学級在籍生徒への適正範囲での通級など個に応じたきめ細かな指導
- ・講師による小中合同の職員研修会の開催
- ・必要な生徒に対する個別検査及び本人参加型会議の実施
- ・特別支援委員会の特別支援学級、不登校生徒、別室生徒に対応した定例開催、

3 【確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒】に向けた重点と具体策

(1) 一層のわかる楽しい授業づくりの推進

- ・授業を生徒の立場から、「分かり感のある 楽しい授業にすることの再確認

- ・授業における聞き方指導の徹底「顔を見て」「笑顔で」「頷いて」「最後まで」「よい姿勢で」
*良い姿勢の明確化と指導

(2) 全国学力学習状況調査及びNRTの結果を活かした個に応じたきめ細かな指導

- ・NRTを全学級、全教科で52.5以上、全国学力調査全国平均+5%以上をめざす
- ・NRTの町全体での追跡による結果の校内での分析と活用

(3) 基礎的基本的事項の確実な習得のための取組の充実

- ・定期テストから、評定2又は1と評価せざる得ない生徒を、評定3にする取り組みを行った上で評価
- ・学年で身につけさせたい事項についての全校テストの実施
- ・町研算数数学学力調査委員会の取り組みの継続
- ・「質より量」を意識した家庭学習習慣の確立、週14時間、定期テスト部活中止期間1日5時間
- ・長期休業中の学年学習会の実施
- ・『白い森学習センター』の積極的活用
- ・各種検定の積極的取組、特に英語検定は、1年5級全員受検、2年4級全員受検、3年3級希望者受検
※1年は保護者負担、2年は町より1/3程度補助、3級以上は町より全額補助
- ・NIE (Newspaper in Education)の展開

(4) 読書活動の充実

- ・朝の読書時間の確保と『50分読書』の取り組み
- ・目標読書量の設定(年間3000P)とその達成のための取り組み
- ・家庭での読書の機会の啓蒙

(5) 応募活動の重視

- ・計画的応募活動の継続

(6) 教師の指導力を向上する。

- ・ユニバーサルデザインをベースに探究型学習を意識した学校研究の積み上げ
- ・学校研究に伴う「関心意欲態度」の評価の共通認識
- ・年4回の全員参加研究会の他、その他の全職員による「1ペーパー授業研」
- ・志水教授による授業改善実践プログラムによる研修会と授業診断の実施

(7) メディア教育の充実

- ・情報機器の効果的活用と情報教育の推進
- ・学校研究発表会を意識したICT機器活用の日常化

■ 6 今日の課題に対する学校としての考え方と取り組み

- (1) 小中高一貫教育平成30年度からの「小中一貫校 小学校・中学校」への試行をめざした取組
- (2) ユニバーサルデザインをベースにした探究型学習を意識した学校研究の積み上げ
- (3) キャリアスタートウィークの3日間での実施と内容の充実
- (4) 70周年記念式典の実施
- (5) 英語検定受検の充実
- (6) NIE (Newspaper in Education)の展開
- (7) 食物アレルギーへの確実な対応